

別記

調停委員會決議に對する聲明書

市電爭議調停委員會は、市當局の暴圧と委員長の無理論たる仲裁案のため遂に決裂した。惟ふに市電今日の苦境は、市當局の交通發達に對する無策無方針と積年に亘る既成政黨と市當局との嚴峻的利害政治の集積によるものであつて、豪も從業員のおづかり知りざる所である。

然るに市當局と既成政黨とは、自らその責任を感ずる所なくして既に數回一人労働者にその犠牲を強圧し來つた。而して今また一人にして數萬圓數千円をむさぼる市當局は自前一錢の犠牲を払ふことなく偽稱的更生案の名にかくれて今回の暴業を從業員に強圧し來つたのである。

今回吉田委員長の投じた仲裁案を見るにその中には市電更生のための合理的解決の片鱗をたに見出すこと能はずして、單に從業員に對し強圧された暴業の体裁を整へたに過ぎない。

前強制調停案の不履行に對して、^可とんたことは前理事者のやつた事で我等に責任なし」と放言して憚らない現市當局と更に自ら前回爭議の強制調停の委員長であり乍ら自ら決した調停案に對して強き責任を感せざる吉田氏との合意に於ける今回の偽稱的解決案の結果は遠からずして三度從業員に對しての犠牲強圧を行つて現るゝは火を見るよよりも明である。

首腦部が断乎として解決案を拒否せるは之の不合理なる資本主義的強圧に對して抗争せんとする決意に外ならない。

此の抗争はたゞい暴圧によつて目前に致さずとも崩壊に傾する資本主義に深刻なる打撃を方へ無産階級の明日の全面的勝利に強き拍車を加へるであらう。